

## 泌尿器科

診療科目：泌尿器科

診療科担当研修責任者名：富田 善彦（泌尿器科教授）  
診療科連絡先担当者名：星井 達彦（泌尿器科総括医長）

連絡先：（電話）025-227-2289；（Fax）025-227-0784  
（Email）t-hoshii@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：16年度：0人。17年度：1人。18年度：0人。19年度：2人。20年度：2人。21年度：1人。22年度：2人。  
23年度：2人。24年度：2人。25年度：2人。26年度：1人。27年度：3人。28年度：1人。29年度：5人。  
30年度：2人。

受入期間：1ヶ月以上

同時受け入れ可能数：3人以内

◇◇◇ 学会認定専門医数 ◇◇◇

日本泌尿器科学会専門医17人、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医5人、日本内視鏡外科学会技術認定医5人、日本がん治療認定医4人、日本癌治療学会臨床試験登録医1人、腎移植認定医（日本臨床腎移植学会）2人、移植認定医（日本移植学会）3人、日本排尿機能学会認定医2人、da Vinci サージカルシステムパイロット（手術医）5人

◇◇◇ 学会認定指導医数 ◇◇◇

日本泌尿器科学会指導医10人、日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会・泌尿器ロボット支援手術プロクター2人（以上大学勤務医19人中）

◇◇◇ 学会専門医修練施設としての認定 ◇◇◇

日本泌尿器科学会認定施設、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定施設、日本腎移植学会認定施設、日本透析学会認定施設

診療科の概説・特徴

診療科研修の特徴等

泌尿器科は外科学の一分野を担っているが、扱う臓器・疾患の範囲は広い。当科における特色をなす分野としては、泌尿器腫瘍学、神経泌尿器科学、腎移植学、泌尿器内視鏡外科学等が挙げられるが、これらの分野では新潟県内でのリーダーの役割を果たすだけではなく、対外的にも評価されていると自負している。とくに腎移植については我が国で初めて腎移植を行った歴史があり、現在も積極的に移植再生医療を進めており、その症例数も飛躍的に増加している。腫瘍学の分野では、特に腎癌においては世界的な開発治験に参加するなど、本領域における先進的医療の牽引役を担っている。内視鏡外科学においては、腹腔鏡下副腎摘除術を世界で初めて行って以来、低侵襲の治療として腹腔鏡手術を積極的に行っている。また、平成26年2月より、ロボット（da Vinci）支援下での前立腺癌全摘除手術を開始し、28年11月にはロボット支援下での腎部全切除術を開始した。

当科では、4～5人の医師で構成される主治医グループの一員となり研修を行う。担当患者は偏りがないように受け持たされ、泌尿器科で扱う主要疾患の診療が理解できるように主治医グループから指導を受ける。これにより腎移植、泌尿器科腫瘍疾患、小児泌尿器疾患等の診療の一般的な流れについて把握することとなる。研修期間によっては、様々な腹腔鏡手術を見学する。献腎移植等の緊急手術に立ち会うなどの当科研修ならではの経験ができることもある。週2日（火・木）は外来での研修が主となり、泌尿器科外来で一般的に行われる処置・検査を研修する。月・水・金曜日の週3日が当科の手術日であり、症例にもよるが、原則として担当医の一人として手術に立ち会い、泌尿器外科医としての基本研修を積む。術前・術後の症例検討会が毎週木曜の夕方に行われる。各症例の治療方針について主治医グループの分け隔てなく検討・討論され、研修医も参加することになる。

## 眼科

診療科目：眼科

診療科担当研修責任者名：福地 健郎（眼科教授）  
診療科連絡先担当者名：梶野 哲哉（眼科総括医長）

連絡先：togacchi@med.niigata-u.ac.jp

新臨床研修医指導実績：17年度：4人。18年度：4人。19年度：5人。20年度：3人。21年度：2人。22年度：2人。23年度：3人。  
24年度：1人。25年度：0人。26年度：5人。27年度：2人。28年度：9人。29年度：5人。30年度：5人。

受入期間：1ヶ月以上

同時受け入れ可能数：5人以内

◇◇◇ 学会認定専門医数 ◇◇◇

17人（大学に在籍する専門医の数）

◇◇◇ 学会認定指導医数 ◇◇◇

日本眼科学会指導医5人（大学に在籍する指導医の数）

◇◇◇ 学会専門医修練施設としての認定 ◇◇◇

日本眼科学会専門医制度規則施行細則第15条第4号に該当する眼科研修プログラム施行施設（認定第1056号）  
一般社団法人日本専門医機構における新潟県唯一の（大学基幹）眼科専門研修プログラム（医療機関コード 89-1001-1）

診療科の概説・特徴

診療科研修の特徴等

新潟大学眼科は明治43年新潟医学専門学校の創設とともに開講された。100年以上の歴史を有する日本でも数少ない眼科学講座の一つである。教室の主たる特色たるテーマは緑内障であり、基礎研究実績をこれまでに多数積み上げ、緑内障研究の第一線を歩んできた。臨床的にも県内外から多くの患者が来院し、非常に高度な緑内障診療が日常的に行われている。また、その手術実績は国内1、2を争い、その存在は際立っている。また緑内障だけでなく網膜・硝子体、角膜・感染症、斜視・弱視、神経眼科、腫瘍・形成、ロービジョンなど多数の分野それぞれに秀でた専門医を揃えており、そのいずれもが優れた臨床成績を誇っている。関連病院は新潟県全域に及んでおり、一流の眼科医を目指すに足る充実した後期研修を受けることが可能である。

当科では疾患別に診療チームが構成されており、緑内障班、網膜・硝子体班、角膜・感染症班、斜視・弱視班、白内障班、神経眼科班、腫瘍・形成班がある。研修中は1グループを1ヶ月交代で担当することが、研修期間により診療班の重複や交代時期をflexibleに対応することも可能である。当科手術日は月・水・金曜日であり、各グループで手術日が異なるが、他のグループの手術見学も可能である。術前・術後・難症例に対する診療科長を含めた回診が毎週水曜日に行われる。症例検討会も同日に行われ、研修期間中、担当患者の症例発表も行う。その他の曜日は、外来と病棟研修になる。外来も多くの専門外来があるため、見学だけでなく処置の助手等も担当することになる。どのグループに属しても細隙灯顕微鏡や倒像鏡など最も基本的な眼科診療手技を身につけるとともに、視野検査や眼底造影検査などの所見を判読するトレーニングを行う。